

V. クマ類の錯誤捕獲によるリスクとその対策

近年、シカ・イノシシの捕獲を目的としたわなにクマ類が錯誤捕獲される事例が増加しています。平成 25（2013）年に環境省と農林水産省が発表した「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」によってシカ・イノシシの捕獲強化が進められていますが、シカ・イノシシの捕獲強化に伴い、くくりわなや箱わなの設置台数が増加しています。

わなによる捕獲では、クマ類やカモシカ、キツネ、タヌキなどの中型哺乳類の錯誤捕獲が避けられません。特にクマ類が錯誤捕獲された場合は、人身被害にもつながることがあるため、実行可能な錯誤捕獲防止対策に取り組んでいく必要があります。

（1） 錯誤捕獲発生時の事故リスク

クマ類の錯誤捕獲には、人身事故の発生リスクが伴います。見回りに来た捕獲従事者や通行人、放獣作業実施者が捕獲個体に接近すると、個体が暴れた際に、クマ類がわなから解放され、攻撃を受ける可能性があります（図 5-1-1, 5-1-2）。さらに、子グマが錯誤捕獲された場合は、わなに接近した際に、周囲に留まっていた母グマによる攻撃を受ける危険性もあります。



図 5-1-1 箱わなからの逃走事例

わなの一部を破壊しており、放獣作業者が接近した際にその部分から逃走

（株）野生動物保護管理事務所提供



図 5-1-2 くくりわなの根付けが破壊された事例

（株）野生動物保護管理事務所提供

（2） 錯誤捕獲を防止するための対策

錯誤捕獲は人身被害の発生リスクがあるとともに、錯誤捕獲された動物へ苦痛を与えることにもなり、錯誤捕獲が発生しないよう最大限の注意を払って捕獲を行う必要があります。

わなの設置場所周辺でクマ類の目撃や痕跡が確認された場合は、わなの稼働を中止するか、わなの撤去または移設を検討してください。また、シカを対象とした捕獲の場合は、シカのみが誘引されやすいヘイキューブなどの粗飼料を誘引餌として使用してください。箱わなの上部にクマ脱出口を設けることを推奨している自治体もあります。ただし、人が

箱わなに接近した際にクマ類が脱出口から出てくる可能性があるため注意が必要です。また、脱出口から出入りして餌付く可能性があるため、一度でも脱出が確認された場合はわなを移設するなどの対策が必要です。

共通の対策
<ul style="list-style-type: none"> • 脆弱なわなの使用を避けてください。 • 人家周辺にはわなを設置しないようにしてください。 • 見回りは原則として毎日実施してください。 捕獲から時間が経過すると、わながクマ類によって破壊される、くくりわなの場合は拘束部が壊死して脱落する可能性があります⁶⁹。 • 遠方から見通しのいい場所にわなを設置してください。 安全に見回りや錯誤捕獲発生時の状況確認を実施することが可能です。
くくりわなでの対策
<ul style="list-style-type: none"> • 使用するくくりわなの法規制に関して、クマ類の錯誤捕獲による事故を軽減できる以下の事項を遵守してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪の直径 12cm 以下 ・ よりもどしの装着 ・ ワイヤーの太さ 4mm 以上 • くくりわなの根付けには強固な固定物（直径 20 cm以上の生木など）を使用してください。 • 公道、林道近傍にわなを設置しないでください。
箱わなでの対策
<ul style="list-style-type: none"> • 箱わなの扉にはストッパーを付けてください。

(3) 錯誤捕獲を防止するための技術の開発と発生状況の把握

錯誤捕獲を防止するためには、捕獲技術の開発も併せて進めていく必要があります。静岡県農林技術研究所では、シカを捕獲するためのわなとして、セルフロックスタンションや誘引式首用くくりわな等を開発しています。これらのわなは、構造上、角のないメスのシカを選択的に捕獲できるだけでなく、クマ類の錯誤捕獲を回避することが可能になっています。また、群馬県林業試験場では、くくりわなのワイヤーの代わりに、強度の弱いナイロンロープを使うことで、クマ類が噛みちぎって逃げられるわなを試行しています⁷⁰。

また、錯誤捕獲の発生状況を記録することで、効果的な対策の検討にも貢献できます。報告様式を定めるなどして情報収集の体制を構築することが求められます。

⁶⁹ 中川, 2020. クマ類の錯誤捕獲の現状と課題—西日本のツキノワグマの事例について—. 哺乳類科学 60(2) : 345-350 pp.

⁷⁰ 福江佑子・竹下毅・南正人, 2018. 錯誤捕獲の現状とその課題（～特にくくり罠において～）. 哺乳類科学 58 : 117-118 pp.